婦人と新社會

山田わか主筆

八月號

生命の擁護教育と生命の破壞の教育

人間と動物と植物と

ジエン・アダムス女史と社會事業

研究の自由と學問の獨立

發賣禁止と讀書趣味

マルクス主義とマルクスの研究法

有島武郎氏の死

既婚婦人の職業

田舍婦人の生活

年始中元の贈答品

近代歐洲思想の歷史的研究

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
大正十二年七月二十三日印刷納本

毎月一回一日發行　第四十二號　大正十二年八月一日發行

東京[illegible]新社會[illegible]

婦人問題研究資料

婦人と新社會

第一巻 二圓五十錢
第二巻 三圓
第三巻 三圓

合本

總クロース
金字入美本
送料各十五錢

主要内容目次

■社會と婦人■文化と文明■家庭婦人と政治■家庭と家屋と文明と■婦人の解放とは■婦人運動の發達と其の傾向■性的教育■男子の婦人論■結婚に對する現代人の態度■婦人の經濟的地位と職業■婦人と社會奉仕■女權と子供■女性の眞價■本能の放宙から本能の征服へ■米國婦人の生活と婦人參政權■青年男女の交際機關■道德と藝術■新マルサス主義を否定す■男性文明の末路■産兒制限の倫理的批判■小學教員と母性■母性の革命天才、遺傳、環境に附ての考察■スペンサーの婦人觀■再婚に付いて■男女關係と母子關係■健全なる人生觀が現代政治の不安を一掃する■「男らしさ」の定義を變更すべき時■再び家庭の危機に附いて■集合的育兒法と子供の幸福■不滿と社會主義■オリーブ・シユライネルの死■婦人の心理的創造力の解放■女子高等教育と出產率■革命と人間性■何が流行の浪を造るか■男子の不貞操に限て■新社會の教育方針■社會制裁機關としての家庭■生命の新價値■新時代の戀愛と結婚■時代精神を獲得した婦人■女權主義者と產業王との對話■新時代が要求する團體生活■基督教が人心を納め得る一つの秘訣■ルソーと現代の思想家■多數制が眞の民主々義か■科學的態度の缺乏■交換價値と使用價値■婦人問題の社會學的基礎■婦人參政權の賛否■愛の悩みを癒すエレンケイ■適者生存の人道化が我が皇室の萬世一系■人類の希望と婦人■女性の特質と女子教育■太平洋會議の側面觀■新時代の夫の資格■カールマルクスと彼の母■家族制度と個人主義■理想の夫婦■機械と人生■教育と社會良心■能率の限界■軍備縮少と母性保護■婦人から政治家への要求■家庭奴隷から家庭の女王へ■社會生活と責任■最近婦人論の傾向■新聞と責任■家庭の進化■家庭 愛國主義 世界平和■知的婦人の職業■現代不安狀態の原因に就て■人間性と社會生活■人間の生活と動物の生活■逆な不具者と其の矯正■物價調節の鍵■新時代と婦人の位置■婦人思想界の浮觀■早婚の弊に關する一考察■其の他數百篇

東京市四谷區南伊賀町四一
婦人と新社會社
振替口座東京五三六八八

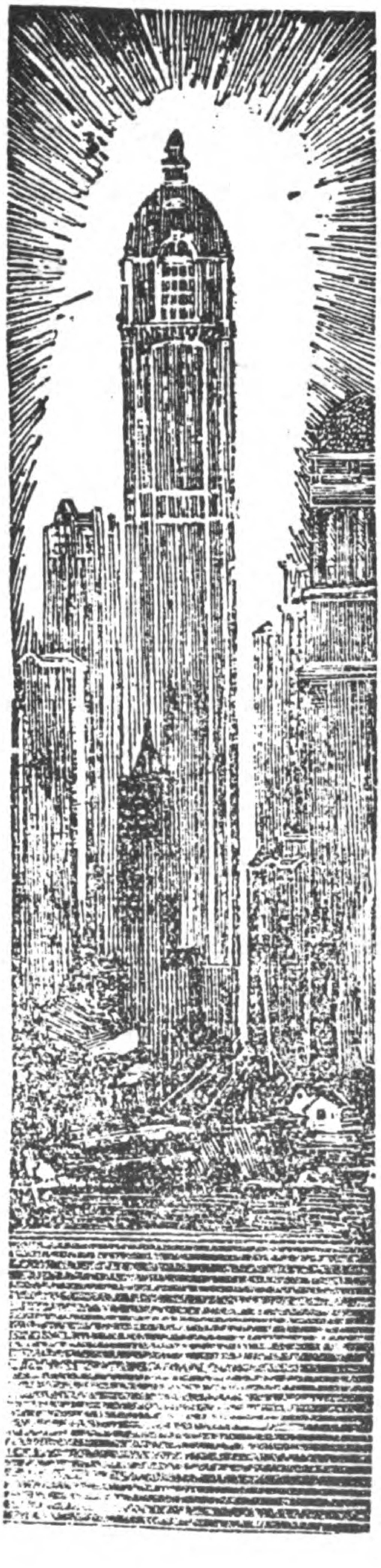
婦人と新社會

八月號

人間と動物と植物と

道徳家が何と言はうと、我々人間の世界と動物の世界とには多くの共通點がある。動物界には人間界よりも邪惡が少ないと言ふわけでもない。強い奴の剛慢、弱い奴の卑劣、下劣な奴の掠奪性、大努力によつて買はれる短い喜び、長い苦しみによつて達する死、さう言ふことが人間のうちと同じく動物のうちにも原則となつてゐる。處が、植物界に於ては、其の生存が苦しみによつて取り卷かれてゐない。悲しい想像が植物の美しさを曇らせない。人間の情とか不幸とか心配とか言ふものを植物はもつていない。植物には愛はあつても嫉妬はない。美はあつても虚飾はない。力はあつても暴力がない。死はあるけれど苦しみはない。結局植物と人間とは其の性質が異つてゐる。

（佛蘭西の科學的先覺者クピエ）



生命擁護の教育と生命破壞の教育

先づ、大體に於て、今日の婦人は知力上、職業上、可なりな進歩を遂げてゐます。けれども、其の知力上、又は、職業上の進歩に伴つて果して人間としての進歩を遂げてゐるかと云ふと、其れは遺憾ながら非常に疑はしくなります。

尤も、それは婦人に付てばかり云ふべきものではなく、其の弊は男女共通のものであり、そして其の原因はと云ふと、其れは全く今日迄の教育がしからしめたものであ

ります。

今日迄の敎育が人間的價値の增進に資する處が少なかつたと云ふことを考へて來ると、今日迄、最高敎育を獨占し物質界の全權を握つてゐた男子が婦人よりも多くの非行を敢へてし、非人間的であつた理由が解つて來るやうな氣がします。其處へ行くと婦人の方が餘程人間的でありました。と云ふのは婦人は其の境遇上隨分感情の陶冶をして來ましたし、又、母らしい愛情から人間の本性の幾部分かを摑んでゐました。けれども、一朝婦人が其の在來の境遇を脫して男子と對等の位置に立たうとする時には彼女達の目標とする處は男子の能力、男子の腕力でありますから、そして、自身を築き上げるに取り入れる材料は今日の男子を造つたそれでありますから、彼女達も亦人間らしくなり得なかつたのは無理のない處です。彼女達は其の求めた處を得たのです。そして、それは比較的價値の少ないものであつたのです。ですから今日の婦人が男子と同等の職業上の自由及び大學敎育を要求して、そして其れを與へられた處が、其の

結果は非人間的な男性化した婦人が出來る計りであります。

人間を支配してゐる二大動力則ち愛慾と食慾の事はいつかも書いて置きましたが、今日迄の教育は殆んど全くこの食慾の擁護なる智力の方面に計り偏よつてゐて、愛慾の擁護なる感情の方面は全く無視、否々もつと惡く全く蹂躙されてゐました。私は今日の男子の大學教育を何の批判なしに其のまゝ受けたいとは思つて居りません。

昔から今日に至る迄の教育思想をごく簡單にあとつけて見ますならば、勿論歐羅巴の教育思想ですが、希臘以前の教育は大體に於て人間の階級を永久に殘さうとしてそれを明らかにしたもので、教育に對する一般人の權利とか、又は教育は一般の善のためなどゝ云ふ概念は全くなかつたものです。希臘時代になつて、ソクラテスやプラトーやアリストートルを通じて教育上の學說が立てられ、そして教育の基礎は心理的倫理的政治的でなければならぬといふことになり、そして、教育の任が始めて國家の手に移りました。が、矢張り教育は階級を脱する事が出來なかつたのです。勿論、プラ

トーは階級を問はず優秀な人物の昇進し得る道をつける事はつけて置いたのですが。
羅馬時代になると希臘の教育が理論的であつたに反して實際的になりました。希臘の教育は古典的であり、羅馬の教育は科學的でありました。科學的と云つても科學を教へたと云ふのではなく、教へ方が科學的であつたと云ふのです。生活の高尚な概念を女子教育の重要なる要素にしたのも羅馬でした。それから中世紀の教育の根本的特長は宗教でありました。從つて未來に重きを置き現世を疎ずる傾向があり、其のために其の教育は偏頗なものでありました。
文藝復興時代は宗教教育の反動で、從つて權力教育に反し自由討議の教育でありました。そして教育は製造するものでなく成長させるものであると云ふ事を信じるやうになりました。其の結果政治上宗教上科學上に大變化を來しました。同時に教育の目的、教育の方法も亦異つて來ました。則ち、國民の無學は禍である。國民の無學は、絕へず、國家を、宗教を危ふするものであると思ふやうになりました。で、又、壓制

敎育の觀念が生れました。これは新敎主義が敎育に與へた影響です。

十七世記になつてフエネロンは、敎育は彫塑術のやうなものだと主張し、大反對があつたにも拘らず、彼は人間の性質を制裁し、變更し、殆んど改造し得る事を主張し、同時に彼は壓制敎育には反對しました。思ふに今日の自然敎育もこのフエネロンに其の萠芽を持つて居るようです。フエネロンの特長は物語を用ひて兒童を敎育しやうとするのでありました。

同時にロックやルソーは、敎育の目的と方法は其の當時の優勢な哲學的政治的宗敎及び社會的思想のタイプによつて決定されるものであると主張しました。其の當時下等社會に於ては苦役を課せられ、上流社會に於ては飾り物であつた女子の智的敎育は無用に非ずんば危險なものと思はれてゐて、女子敎育と云へば獻身の精神を養ふとか、又は、社會と全く離れた生活を奬勵するものでありました。其れは禁欲敎育則ち宗敎的の敎育であつたのです。この時に當つてマダム・ド・メントノンが現れ、女史によつ

て、それ等の因襲は覆へされようとし、智力上に於ける男女の平等が稱へられました。けれども、其の頃の教育は寺院に於て授けられてゐたものでありますから、到底其の要求は滿たされない、まして男女相互の利益になるやうに兩性が共に教育されやうなどゝは思ひもよらない事でありました。

其の後再び教育は宗教家の手から國家の手に移りました。この變化は女子の高等教育には好都合なものでありました。技藝學校と云ふものが出來たのもこの時代でした。そして國家は教師養成の必要を感じ、其れに關するいろ／＼の機關が造られました。けれども其の機關も教師の數も到底教育志望者の要求を滿すには足りなかつたのです。この教師養成の必要と云ふ事がルソーを生みました。ルソーは其の著『ミエール』に於て教育者としては自然が適材か、人間が有力かと云ふ事を比較してゐます。其の當時は、又、宗教に於て、哲學に於て、政治に於て權力の時代であつて自由を行ふ餘地は殆んどなく、教育も文藝復興以前の其れのやうに製造教育でありましたが、ルソ

ーは其の所信を大膽に發表しました。彼は兒童の性質は植物又は動物と同じく人爲的の助けには關係なく自由に進步發達するものと考へてゐました。そう云ふ風にルソーは自然の意味を取り違へて居たにも拘らず『エーミル』は其の一般の精神に於ては智力開發敎育として先づ偉大なものであつたのです。

其のうちにキャント一派の哲學者が現はれて哲學者の見地から敎育は說明されました。彼等の意見によると兒童は先人の步いた道を、自由意志をもつてあとつけて行くもの、云ひ換へれば、先人が一步々々と長い間めくら探しに探して造つて來た道を兒童は步いて行くものだと云ふのです。

十九世紀の敎育思想の特長は手引きになる原則を實行の先きに得やうとする事でありました。そして、敎育の原則を社會科學及び法理學にまですらも求め、敎授法の原則を心理學に求めてゐました。スペンサーに於て敎育思想は先づ健全に結晶したと云へます。併しスペンサーは智識の必要を說いたけれども其の直接價値と間接の價値を

區別して置きませんでした。科學は有益なものには相違ありません。けれども各人が科學に精通する事は難しい事である計りでなく、又、科學計りで人間が完全になるわけのものでありません。

長い間の變遷をあまり簡單にかいつまんだので分り難いかも知れませんが、之を要するに、今日迄の教育は智力の教育即ち食慾の擁護に專心であつて、感情の教育則ち愛慾の擁護は全く無視されてあつた事はほゞ分るやうに思ひます。智力計りが進步した結果は產業の革命があり、今日の富の不平均を造り出し、又は途方もない馬鹿氣た大戰爭を惹起しました。

腕力を誇る男子にドシ〳〵智力教育を授ける結果は軍國主義、即ち、ライフテーキング（生命を取る）が益々盛んになつて行きます。其處へ行くと婦人のうちにはごく小數ではあつても、男子のやうな不具な發達を遂げてゐないだけに、本當の人間の本性とか、人間の步むべき道とか云ふものに就いて考へてゐる者があります。婦人は男

子とは異つた或る情操を持つて居ます。其の情操とはライフギヴイング（生命を育む）の喜びと云ふやうな言葉と切り換へられるやうに思ひます。

私が高調したいのは此の點です。女子敎育はこの情操を土臺として進んで行かなければならないと思ふのです。今日迄、男子に授けられてゐる敎育を其のまゝ女子に授けられるならば女子も亦今日の男子と同じやうな横暴な不具な發達を遂げた軍國主義者となつてしまうでせう。それでは何時迄たつても世の中の殺風景は改まりはしません。

男子は多くの點に於て女子よりは優れてゐます。けれども其の優れた點は多く人生の枝葉の事に走つてゐるのです。科學は價値あるものであるに相違ありません。技術は調法なものです。腕力も時には有效なものでせう。けれども、其等の點に付いて男子に劣つてゐる女子は正しい感情を所有してゐます。如何に感ずべきかを學ぶのが人間學の最高なるものであると云つた人がありますが、この正しい感情、則ち、私共の

存在の中心原則を自個の感情に調和させてゐるものは婦人に多いのです。ですから、男子が枝葉の事柄に誇つたり、あくせくしたりして居る間に婦人は靜かに感じつゝ、考へつゝ、人生の根本原則を摑まうとしてゐるのです。これによつて、云ひかへれば人格の出來た婦人の手によつて、この殺伐な世の中は救はれるであらうと私は信じてゐるのです。

今日、稍、勢力を得やうとしてゐる自然教育、則ち、早教育は智識を得させるには實際有效なものです。けれども嚴密に考へて見ると、これも矢張り智育、體育に重きを置いたもので同時に今日の國家の注文に應じた人物を造るに過ぎないやうに思へます。

今迄の教育は國家の注文に應じて品物を製造するやうな教育でありました。今後の教育は殊に女子教育はこれをひつくり返したものでなければなりません。

今迄は、感情が無教育で、感情界が無政府の狀態にありましたので、世の中は進步

したやうで實は其の實質がなかつたのです。所謂文明と云ふものが進んだとは云ひながら人の幸福は少なくて苦痛の方が多いのです。人生は感情が主人で智識は其の侍女である筈でありますのに、侍女ばかりが高等敎育を受けて强くなつて、主人は無敎育で馬鹿で放縱であるために侍女が無暗みと威張りだして、其の主人を壓迫し、くらやみに幽閉してしまひました。變な人生が出來てしまいました。この壓制に喘く感情、くらやみに幽閉されて懊惱する愛慾は其の苦悶の聲を僅かに詩文章を通じて世の中に訴へてゐたに過ぎないのです。

或ひは、又、智識と感情は車の兩輪の如くに擬る事も出來ます。故に其の一方のみ發達を遂げたのでは眞直ぐに廻る事は出來ないで、一ツ處計りグル〳〵廻りをしてゐますから、廻はつてはゐる樣でも前進する事は出來ません。眞の意味の進步はないのです。又差し當りは優勢な智力でも、無敎育な感情が不純な愛慾を許す結果、悪性な一夫多妻、一妻多夫と云ふ樣な人生觀が出來上がつて其の健康を害されますから遂に

は智力自身も破壞される事になります。

今のやうな世の中でも、たまには、幸福な生活を送つてゐる人々を見ます。そう云ふ人は或る機會によつて感情の敎育を受け正當な愛慾を享有してゐる人々です。彼等は男女關係の意味を本當に了解し、そして家庭の人格を築き上げた人々です。則ち嚴格な一夫一婦が相愛し、親子相慈しみ勞働の神聖を奉じ修養の必要を體得してゐる人々です。

で、今日の女子敎育の急務はこの愛慾をも精選する方法を講ずる事です。如何に新しい名の女子大學が出來た處で、敎育家がこの愛慾の敎育を等閑にしてゐる間はそんな學校はあつてもなくても同です。如何に恰好を替た處が小麥粉の餅は矢張り小麥粉です。小麥粉から米の餅は出來ません。

正しい感情の所有者、ライフギヴングの情操を本能のやうに持つてゐる婦人が正當に敎育され社會上に力を得たならば、それだけ軍國主義の勢力は削がれて行きます。

軍國主義の跋扈は絶對に人類の不幸です。軍國主義は婦人を奴隷の位置に陥れました。と云つて、國防を無視するものではありません。軍國主義と國防とは別問題です。智的教育が最も進歩してゐて、軍國主義が最も盛んであつた以前の獨逸は、歐米諸國中で、女子教育が一番後れてゐました。女子高等教育の要求者が獨逸から最も多く出てゐるのは其の反動であつたのです。

智的教育は個人單位でありますが感情の教育は家庭が單位です。家庭は社會の單位です。國家が留意し、其の力を盡さなければならぬ處は家庭の幸福を増進する事です。そして、家庭は婦人が主宰すべきものです。凡て、道德の増進は國家よりも家庭の方がよりバイタルでより一般的です。家庭を優美に溫かに堅實なものにする事は國家を支配するよりも偉大なる仕事です。そしてこの仕事は人格ある婦人の双肩にかゝつてゐます。

家庭は愛慾を教育する大學であらねばなりません。



ジエーン・アダムス女史と社會事業

ジエーン・アダムス女史が來朝されて居るに際し、女史に付て、聊か、御紹介して置きたいと思ひます。此の頃は『世界一』とか『世界的』とか云ふ言葉が流行し、其の言葉の價値が下落してゐますから、其れを用ひるのは少し困るのですが、併し、アダムス女史は本當に『世界的名物婦人』『世界平和の母』であります。

歐洲漫遊の歸途いよ〳〵來朝されると云ふことが報ぜられた時に、社會運動家や學者達が胸おどらせて待つてゐたと云ふことですが、さもあるべきことだと思ひます。

女史は一八六〇年、今より六十三年前に、合洲國イリノイス洲シーダービルに於て、上院議員ジエー・エッチ・アダムス氏の娘として生れました。一八八一年、二十一才の時ロックフオード大學を卒業して、それから二年間歐洲を旅行しました。其の後二十

九才の時エレン●スター女史と共にハルハウスを創立し、以來今日に至る迄其の會長です。『ハルハウス』と云ふのは、女史が社會事業の苗床としてシカゴに一軒の家を買びましたが、其の時の家の持主の名が『ハル』であつたので、それを『ハルハウス』と名付け、そして、今日の盛大に及んだのです。ハルハウスの成長と、其功績、及び、社會のために其れがどの位ひ有益であるかと云ふことは世界周知の事實であり、それに付ては後に少し書かうと思ひますが、其れ以外の女史の活動はどんなものかと申しますと、女史はシカゴ市に於けるあらゆる改革運動に參加して其の優れた技倆を現して居るのみならず、合衆國全體の改革運動にも常に加つてゐます。そして、婦人子供及び貧民に關する問題には殊に熱烈な運動振りを見せて居ります。

女史は無數の公私の委員となり、大中小學校の卒業式、及び、其の他の講演會に出て講演をしたり、新聞雜誌に執筆したりして社會改良のために盡して居られます。社會問題に對して、女史は政治的又は經濟的の見地からと云ふよりも、むしろ、倫理的

方面から見ようとしてゐます。民主々義及び道德と云ふ見地に立つて居られるのです。

女史は社會主義者でもなく、又、トルストイを崇拜する人でもありません。けれども、其の兩方へ反對しないのみならず、むしろ、或る點には共鳴してゐて、社會主義及びトルストイの提案にかゝるものを實行してゐます。そして、社會主義や又は勞働組合の主張を基礎として、產業の民主々義組織を主張してゐます。

最近の女史の活動は非常に國際的な色彩を帶びて來ました。そして、全世界の平和運動になくてならぬ人と今はなつてゐます。ハーグに於ける萬國婦人平和會議の會長となつての活躍や、英國とアイランドの間の紛擾を調停する委員となつての活動など實に目ざましいものだと云はれてゐます。

女史は、『戰爭に反逆せよ』と云ふ標語で戰爭を未發に防ぐ運動に率先されました。そして、『戰爭を繼續する要素は新聞の無責任と、平和論者が孤立してゐることと、國際商議の不充分と云ふことである。』と摘發してゐます。又、『婦人と國際主義と云ふ問

題に付ては次のように云つてゐます。『アムステルダムのアレッダ・ヤコブ女史の指導の下に開かれたハーグに於ける婦人國際大會に參集した諸國の婦人達は――交戰國の婦人であれ中立國の婦人であれ――彼女等共通の目的のために、則ち、彼女等が實際經驗した慘劇と危險とに付て本當に眞面目に親密に話し合ふために集まつて來たのである。殊に、交戰國の婦人達は强烈な愛國主義によつて自分自身の幸福、自分自身の信仰、自分自身の感情迄をも、國民的自覺のうちに打ちこんでしまつて居た際に、遠く故鄕を離れて大會に出席したのである。實に、其の心持ちは人間の經驗に於ける最も貴いものである。そして、此の貴い、心持を生んだものが戰爭だとすれば、戰爭と言ふ價を拂つても其の價値はあつたような氣持ちがする。彼女達が國際平和大會に出席した動機を考へると、實に、彼女達の行爲は雄々しくも勇ましい。』と。

これによつても、アダムス女史が如何に國際平和を希望して居られるかゞ窺はれます。しかも、消極的でなく積極的平和主義の主張者であることが分ります。女史は、

又、云つてゐます。『大戰中いろ〳〵の非常な困難があつたにも拘らず交戰國及び中立國から五〇〇人の婦人が大會に集つて來たと云ふことは、或る深い深い精神的の力に鼓舞されたからである、國際主義の精神が破壞されたと一般に考へられて居る時に、婦人達は國際主義の合法、其の大義を世界に發表すべく參集した。國民生活が家庭生活を取り卷いてゐて家庭生活を完備させると同じように、國際主義が國民生活を取り卷いてゐて國民生活を完備させねばならぬことを世界に宣言するために婦人達は參集した。献身的に家庭に盡すことが愛國主義と衝突しないと同じように、愛國主義が國際主義と衝突するものでないと言ふことをも併せて主張するためであつた。』と。

女史は、現代の多くの社會改革家のように、決して、唯物主義に囚はれて居る人でないと言ふことが前述の言葉から私共は知ることが出來ます。女史の著作は澤山ありますが、其のうちでも、『民主々義と社會倫理』『平和の新しい理想』『新しい良心と古い罪惡』『ハルハウスに於ける二十年』『慈善と進歩』などは最も多く讀まれてゐる本です。

此の『慈善と進步』に於ては、ソシアル・セットルメント（これは日本では保隣館と譯されてありますが何だか不充分の樣な氣持ちがします。つまり、それは周圍を感化する目的を以て有志家が、たとへば貧民窟などに移り住むを言ふのです）の主觀的の必要と、其の客觀的價値を論じてゐます。主觀的必要と言ふのは社會改革家にとつては其の主觀を滿足させる理想的運動であり、客觀的には非常に有益なものだと言ふのです。又、『新しい良心と古い罪惡』は、賣笑婦問題を取り扱つたもので『昔は其れが罪惡であると言ふことを人は知らなかつた。けれども、人はやうやくに目ざめた。其の罪惡に氣付いた。そして、此の新しく生れた良心の命に從つて、男も女も共力して、此の古い罪惡を社會の表面から擦り消してしまはなければならない』と言つてゐます。

『世界の大都會は何處へ行つても何千何萬と言ふ其の種類の婦人達が棲息してゐて、社會からつまはじきされ、彼女等に付てもの言ふのは汚はしいと思はれてゐる。……曾て、經濟學者は奴隸の勞働が絕へず自由勞働者の賃銀を制限する、從つて、國

民の經濟的進歩に有害であると言つたが、其の經濟學者は、やがて、安い賃銀と絶望との關係、身體の過度の疲勞と無茶な快樂の要求との關係、それが無數の女を賣笑婦としたと摘發した今日の經濟學者の先驅である。』と云つて、此の問題の要點を的確に指摘し、そして、『結局、人間の進歩は人間の不完全を研究したことによるものである。絶望と云ふものは少なくとも暗示に富んだもので、其れが行爲を促す。要するに、人間問題を取扱ふ唯一の方法は同情を持つて正確に事實を知ることである。不幸な人間が罪惡の藪から明るい境地へ出て來る最も容易な場所は最もよく切り開いてある道である。そして、其の道を切り開くに付ては單なる統計的な知識ではなく、同情をもつた理解でなければならぬ』と。

　何と言ふ温い婦らしい言葉であるでせう。女史がハルハウスを設立したのも矢張り其の同情の溢れからであつたのです。そして、其のハルハウスが外國人の居留地の眞中に造られたのは、米國に於て繼子扱ひされて居る外國人の子供を救はうとするのが

主もなる動機の一つであつたと言はれてゐます。ハルハウスは誰でも入會出來るし、其の主旨は極く寛大で來る者は迎へ去るものは追はないと云ふやり方ですが、今も云ふ通り、初めは外國人の保護が目的であつたので、其の最初の仕事は、幼稚園と、子供の倶樂部と、夜學校と、娯樂會とでありました。それからいろ〳〵の部門が出來て、其の各々がグン〳〵發達して行つて、今では世界の名物の一つになつたのでありますが、此のハルハウスの今日の事業を極く簡單に擧げて見ますならば、第一には講演で、これは大學の延長として見るべきものです。シカゴ大學の教授達が講演をするので、それは主もに外國人の子弟で、大學に入る餘裕も、又、其の準備もない者に大學とほゞ同程度の學課を學ばせるのが目的です。

第二は討論會で、これは勞働者の社會學倶樂部と云つたようなもので、勞働者達が社會問題に關して折り〳〵討論をするのです。第三は勞働組合で、これは勞働婦人の組合の首領達がハルハウス内に住居して居るので、ハルハウスと勞働組合とは自然に

關係が出來たのです。第四は、勞働博物館と云ふのがあります。かう云ふ名の博物館は恐らく此のハルハウスが此の世界に於て最初のものでありませう。つまり、ハルハウスへは各國の人が集まつたので諸國の勞働の方法や狀態を知る材料が集まつたのでせう。且つ、又、世界中の極く幼稚な時代からの道具もあるそうです。第五には藝術と職業と云ふ部門があります。美術及び職業の協會が組織されてあつて、美術に付いての講義や、或ひは、又、殆んど凡ての職業や美術を敎へるのです。例へば、油繪や彫刻から石版術に至る迄。

第六は音學校であつて、一定の人數の子供を音樂家に仕上げようとしてゐます。第七は倶樂部です。ジエーン倶樂部とカルバー倶樂部は勞働婦人の寄宿舍で、其の外に少年倶樂部と云ふ寄宿舍、及び、靑年倶樂部もあります。寄宿舍ではない婦人の擁護を目的とし、講演會や討論會をして、婦人や子供のための運動が此處から起ります。且つ、又、交際倶樂部と云ふのは每週數十の團體が會合します。第八はコーフイー店

ですが、これは周圍の食民達に衞生上の知識を與へるのが目的となつてゐます。

以上列記して來たように、このハルハウスの社會事業の數は澤山ありますが、其のどれもが、皆、事業の模範を造ろうとしてゐるのです。此處で實行して見て、それが有益であると云ふ見込みが付けば、それを政府へなり、社會へなり移して、そして、社會全般に行き渡らせようとするのです。前に社會事業の苗床と云つたのはさう云ふ意味からです。

ジエン●アダムス女史の意見なり、事業なり、又は、逸話のようなものは書いて居れば限りがありませんから、此の位ひで打ち切つて置かうと思ひますが、此の頃、米國から來た雜誌に北米に於ける十二大婦人の投票の結果が掲載されてゐる、其のうちの一人はアダムス女史でありますから、其の十二大婦人が投票された過程を御紹介して此の稿を結びます。

今より一年以前、南北米婦人大會に出席した南米のアンジユハー女史が、北米に於

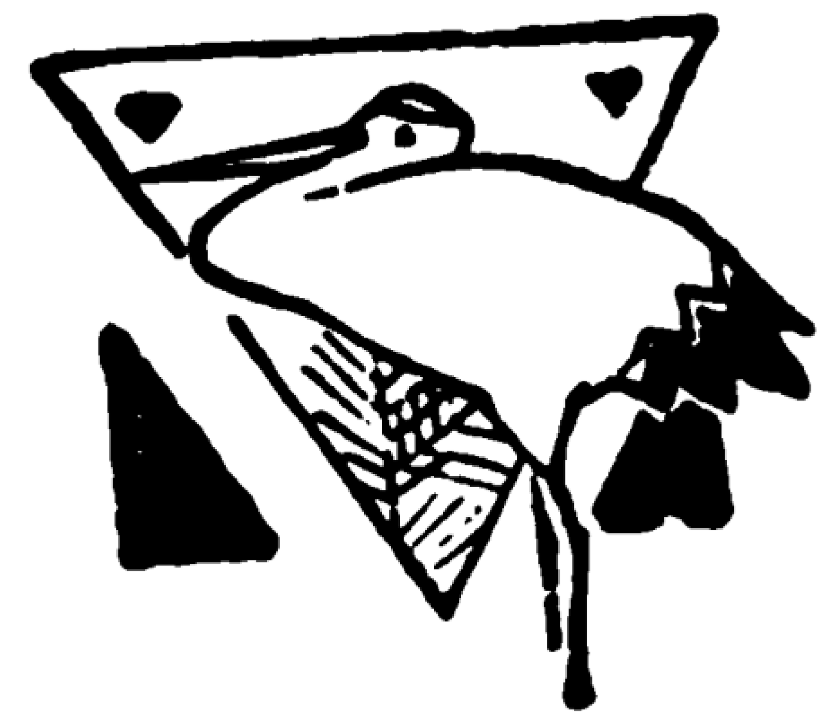
ける十二大婦人の名を知りたいと要求しました。其の當時は、それは容易な要求だと考へられて居ました。けれども、いざ指名しようとなると大變なことです。偉大と云ふことは何を標準とするか？　又、誰が判斷するかと云ふことが問題になりました。それで、委員を選み、各方面から投票を募りました。そして、開票の結果は次のようになりました。

慈善家としての第一人者　ジエーン●アダムス
繪畫に於て　シヤリア●ボー
天文學に於て　アニー●キヤンノン
政治に於て　キヤリー●キヤット
自然科學に於て　アナ●コムストツク
女優として　ミニー●フイスク
音樂に於て　ルイズ●ホーマー

兒童保護に於て　ジユリア●ラソロツプ
解剖學に於て　フローレンス●サビン
敎育に於て　メリー●トーマス
家政經濟に於て　マーサー●レンヌレーヤー
文學に於て　エデス●ホアートン

最後に。多くの婦人達を始め、各方面に於て、女史を歡迎する光榮に浴そうとして其の準備に怠りなかつたにも拘らず、途上健康を害されて、御入京と同時に病院へ御這入りになつたことはかへすがへすも遺憾です。一日も早く御全快になつて愛に輝く其の顏を拜したいと望んでゐるもの、世界平和の母、愛の女神の御壽命が一日も長かれと祈る者は私計りではないと思ひます。

裁縫敎授　淺 葉 八 重
東京市外淀橋柏木一〇八



研究の自由、學問の獨立に付て

學問の獨立とか、研究の自由とか、壓迫がどうとか云ふことが大分やかましく叫ばれて居ますが、私が思ふに、一體、本當に人類を稗益するような學問をした人は、學問の獨立とか、研究の自由とか、壓迫がどうしたとか云ふようなことを考へてゐる餘地はなかつたようです。なぜなら、本當の意味の學問は多くの場合、書齋のうちで、又は研究室でコツ〳〵と靜かに成し遂げられたものであり、牢獄の中で完成されたものさへも隨分あるように聞いてゐます。

フロイドなどは隨分烈しい攻擊を四方八方から、學者達からさへも受けてゐました。併し、彼自身の研究は其のために少しも妨げられない。ユンク博士も亦反對の矢をあびながら彼等の所謂獨立の研究を續け成功して、今日に於ては、一方にはフロイドを首領としたウインナ派、他の一方にはユンケ博士を指導者とした

ツーリツヒ派なるものが出來た位ひです。我が國の如きは、此の心理解剖學が影響する處は單に性慾研究の範圍位ひに止まつてゐるようですが、其の本國に於ては、一切の心理問題、社會問題、政治問題のみならず、國際問題に迄も此の學問の應用を試みる迄に進んで來てゐます。つまり、如何なるものも外部のものは本當の意味の研究を妨げることは出來ない其れが證據です。

發表するに、時によれば困難があつても、其れは止むを得ない、なぜなら、國民的の信仰と、學問の研究とは別であるから、そして、其の別なものを調節するのが施政者の任務であるから、時には其の調節が當を得ないこともあるでせう。基督がはりつけにされたり、コペルニカスが牢獄に投げ込まれたりしたことは、今から見れば隨分馬鹿氣たことですが、併し、さう云ふことは全く例外であつて、多くは、まだ未熟な不完全な研究が社會に發表されるので困るのです。

未熟な不完全な研究が發表され、そして、それが社會に及ぼす害惡は、丁度、不消化な食物を衞生的な食物として小供に與へ、不完全な藥劑や治療法を病人に應用したり、不完全な交通機關を提供されたのと同じで、實に、危險千萬です。當局が其等のものを取締るのは當然の義務です。

學問の獨立、研究の自由と云ふことは徒らに社會主義を反譯し、まだ頭のかた

まらない學生に教へて騷がせることではないのです。今日の場合ひ、權利を主張する者の多くは權利を持つ資格を備へてゐない、つまり、義務を忘れて居ると同じく、學問の獨立、研究の自由を稱へる人達も、まだ、學問其のもの、研究其のもの丶實體を持つてゐないのではないかしらと思はせられるのは眞に遺憾なことです。本當に有益な研究を眞面目に進めて行かうとしてゐる人は何等の壓迫も妨げもなく其れを實行してゐます。さう云ふ人に迄干渉を試みようとする程當局も非常識ではないようです。して見ると學問の獨立研究の自由を主張する人は、一體、誰のためにそれを主張し、絕叫するのでせうか？

發賣禁止と讀書趣味

婦人雜誌の發賣禁止は先づ殆ど全く雜誌の販賣政策の結果です。禁止事件が起ると被禁止者及び諸新聞は當局の無理解と云ふことを叫びますが、それは『當局の無理解』と言ふようなことを言つてさへ居ればさも自分が一切を理解して居るように立派さうであり、又、常にさう言つて居る口ぐせでいはゞ日頃の惰性でさう言つて居るので、第三者の目には無理解ではないと思へる發賣禁止が決して少

なくありません。

多くの人間の本能はまだなか〳〵俗惡です。其の俗惡な本能は常に人間の暗黑面に對して好奇心を持つて居ます。けれども、心の片隅に幾分存在して居る良心は其の好奇心が滿足するように、人に其の說明を要求する事を出來ずに居る時に、其の好奇心を充分滿足させるような記事が雜誌に出て居れば、其の雜誌は羽が生へて飛ぶように賣れます。

ですから、金儲けのための雜誌經營者は如何にして人間の弱點、他の言葉をもつて言へば俗惡な好奇心を捕へようかと言ふことに汲々として居るのです。當局者と編輯者の意見の相違の結果、發賣禁止になつたと言ふようなことはめつたにありません。新聞廣告に『前號が發賣禁止の厄に逢つた本誌』とか、又は、『危く發賣禁止を免れた本誌の深刻味を見られよ』とか『活躍振りを見られよ』とか大々的に廣告をして、如何に彼等が人の好奇心を捕へ得たか、人の弱點につけ入ることに如何に敏活であつたかを誇らかに揚言してゐます。

知つた處が害はあつても益のない人間の暗黑面を國民の大多數は知らう〳〵としてゐるし、雜誌營業者の方では其れを知らせよう〳〵とし、其の害毒を認めて當局が發賣禁止をすれば、又、其の發賣禁止を利用して、讀者の好奇心をそゝるのですから、實際、手の付けようがありません。

輿論に訴へると言つた處が、何にもかも數で行かうとしてゐる今日に於ては、其の輿論も質ではなく、數が有力になるのであり、そして、其の數が俗悪であるのですから實にどうする事も出來ません。で、此の暗やみへ〳〵と頭をつきこんで行く代りに、明るみへ〳〵と國民の頭を導くのはどうしても敎育の力を待たねばなりませんが、其の敎育界の空氣も益々險悪になりつゝあることは眞に歎はしい極みであります。其の罪がどちらにあるとした處が、中等學校になると、ゐう、生徒は敎師を馬鹿にし始めます。六月二十七日の東洋大學に於けるあの騷ぎは何でせうか? 神聖である筈の學園は暴動化し、野蠻化してしまいました。それは同日の凡ての夕刊新聞に委しく出て居ますから皆様が御承知の筈です。

一體、自由と言ふことは馬の手綱をゆるめることです。速度を出すための手綱をゆるめることは必要でありますが、同時に、もし、其れが無制限であつたなら、つまり手綱を離してしまつたら其の結果はどうなりませう。危險此の上もないことです。ですから、手綱をゆるめると同時に、又、ゆるく其れを捌く必要があると同じように、自由の範圍を擴げても其の範圍で賢く其れを取りしまる制度が矢張り必要です。

とにかく私共日本人は讀書趣味に對し、並びに、學問に對して、もつと眞面目に高尙にならなければなりません。金

儲けを人生の目的としてゐるような人間に弱點を掴まれたり、好奇心をそゝられたりしないように、大多數の國民がなるならば、さう言ふ不健全なものは自然に消滅してしまいます。そして、當局の手數もはぶけて、其れだけ國民の負擔も輕くなるわけです。

それから、學問と言ふことは、徒らに社會主義などをいゝ加減にかじつて、そして、まだ頭がかたまつてゐない學生達に普及して、わい／＼騷がせることではなく靜かに、着實に、善を善とし、惡を惡とし、白を白とし、黒を黒とする眞理を着々と頭へ蓄へて行つて、そして、唯實な有益な人生觀を獲得し、自他の幸福を増進して行かうとするものです。

有島武郎氏の死

偉大なる愛を掲げて小さなる
　愛に死にけむうらみはながし
愛を説き施すも誰か顧みむ
　君が辿りし末路儚なし
清廉を謳はれし君愛慾の呪ひに
　晒すむくろみにくし

餘りに皮相の見でありませうが御許し下さい婦人と新社會は毎號一字をも餘さず讀んでゐます毎日降るので田の草は生えませんが稲は少しもヒダチません。さよなら

七月十一日　草間判二

山田わか子様



『マルクス主義者』とマルクスの研究法

　マルクスの原則は社會進化の法則を基礎としてゐない。故に、科學的でない。マルクスの原則を基礎とした、國際社會黨運動は、それ故、科學的價値のない運動である。處で、我々はマルクスと『マルクス主義者』なるものとを區別し得るであらうかと云ふと、確かに區別することが出來る。實に、『マルクス主義者』をマルクスと連絡させて考へる事は、マルクスの記憶に對する侮辱である程に其れは著しく明らかな事實である。

　マルクスの結論は錯誤であつた。マルクスの結論は非科學的であつた。と云つて、此の事實がマルクスの研究法の功績を毫も減ずるものではない。マルクスは科學的の研究法を用ひてゐた。而して、彼が理解してゐる社會進化の働きと反對の方向に社會進化を向けようとする總べての企を撥反してゐた。彼は社會に社會組織を强ゆる事を拒絕し、そして、社會を研究することに獻身し、聰明に社會的傾向に添ふて行かうとしたマルクスは唯一ッ科學を認めた。マルクスが社會主義に新紀元を劃したことは、總ての他の彼が完成した仕事よりもより大なる貢獻であるが、それは、社會主義の爲めの科學的活動は社會進化の法則を理解し、其の法則を基礎とした活動であらねばならぬ

と云ふ事を認めたことである。

マルクスの後輩等はマルクスの科學的研究法を用ゆる事に據つて、マルクスに對する彼等の忠義を證據立てようとしたであらうか？ 決して左樣でない。現代の科學的社會主義者は、マルクスの研究法を破棄した。そして、只、マルクスの結論を崇拜することに據つて彼等の忠義心を表示してゐる。假令、社會進化は、マルクスの時代とは比較出來ない速度で進行したけれども、其後輩等は、此新しき現象を説明する努力に於て、マルクスの取つた方法を適用する事を拒んだ。そして、マルクスが遺して置いた點に、依然と立止り、化石してしまつた。彼等は眞實の科學的の位置より迷ひ出るかも知

れない事を恐れたのである。或は、さうすることがマルクスの記憶に對する尊敬であると思つてゐたかも知れない。乍併、若し、今日マルクスが生存してゐたならば、斯樣な行爲が彼に盡す所以だと彼は思ふであらうか？ それは甚だ疑わしい――寧ろマルクスは彼の一生の仕事が恰も徒勞に歸した事を感ずるであらう。彼は聰明な後輩の代りに盲目なる追從者を得たと考へるだらう。マルクスは、先人の蹈まぬ道を蹈まうとした。マルクスの偉大な點は此處にある。從つてマルクスを崇拜することは盲目的に彼の結論を承諾するのではなくて、彼の研究法を應用する事である。「實際に一個の獨斷的なマルクス論者であらうとすれば、思慮なく

マルクスに從ふ事ではない、乍併、事實を了解する爲にマルクスの研究法を應用することである。』と、カウツキーは云ふ。

乍併、現代の社會的事實の解釋にマルクスの研究法を應用する事を目的としてゐる例を我々はめつたに見ることが出來ない。我々が見る處のものは『資本主義的組織を倒せ？』と云ふ共產黨の宣言に於て、一八四八年に創めて發言された要求の單調なる繰り返しである。乍併、資本主義の組織は容易に其れに傾聽するものでない。恐喝されて消滅するものでない。何故に資本主義を廢するに左樣に手間取るのであろうか？ 今後、幾何の日月を要するのか？ 資本主義の其執拗さは、結局、科學的な社會主義者を甚だ醜き位置に置いてゐるのである。

一年から一年と常に資本主義組織を壓倒すべき要求を國民に語つて居る亞米利加の社會黨の如き政黨は最早科學的ではない。マルクス時代に於てはかような要求には幾分かの理由を附してゐた。マルクスは社會進化の法則を發見したと信じ、而して資本主義組織の社會に於ける危機の原因、及び他の現象を研究して、資本主義の沒落は今焦眉に迫つてゐるのみならず、疾に來るべきであると信じるようになつた。マルクスが斷乎として資本主義の徹廢を命令してから一世紀の四分の三が經過して後、尙資本主義が依然として存在してゐることを、もし、マルクスが考へてゐたならば、彼は其要求を

固守しなかつたであろうと云ふことは想像出來る。

ワイトリングの宣傳に對する、マルクスの攻擊は、彼の態度が如何なるものであつたかを能く表示してある。マルクスは云ふ。『ワイトリングよ、汝の共産主義の宣傳を持つて汝は獨逸に非常な騷動を起し、多くの勞働者を魅したが、汝は、如何なる議論を以て、汝の社會革命の運動を辯護するか？　將來は如何なる基礎の上に汝の運動を置く計畫なるか？　嚴密なる科學的及び具體的の學說なくして勞働者に訴える事は徒らに、良心のない空虛な頭腦で、宣傳を奏樂するに等しいではないか！』と。

マルクスは、たとへ、それが彼の門人であつても、彼の時代以來七十年間蓄積した社會的經驗を說明するに、彼の方法を應用する事を拒み、乍併マルクスに據つて形式とされたる昔の要求を繰り返す事を主張なす者を廢する、第一の人であつたであろう。

社會進化に對する、七十年の經驗に照らし、同じ要求の反覆を證明し得る科學が何處にあるか？　社會進化はそれ等の要求が空想に等しきものである事を證據立た。それはユートピア式昔のブルジョアの社會黨と同視しては、其の社會黨に對して侮辱である程のものである。社會進化の法則に相反する原則を固執する事は、眞の『マルクス主義』の證據ではなく、寧ろ非マルクス主義の證據である。科學

に忠實であることが『マルクス主義』の眞の證明である。ウイリヘルム、リーブクネヒトは云ふ『我々は科學以外に一の權威を認めない。科學の範圍は漸次擴大して、以前には眞理として取扱はれたものもそれが誤解であることを證明し、昔の腐敗したる土臺を破壞し、新たなる建設をなすものは科學である。一分間の休みもなく、各々の獨斷的なるものを蹈附て進む。如何なる人間でも、例へば、マルクスの如き、廣大深遠なる知者でも、科學を最後の完全なる境に進めることは出來ない。科學の性質を理解する人にとつては此れは既に、分り切つた事實である。』と。

科學的の方法が皆無であるなら、科學的の社會主義者が存在する筈がない。之はマルクスが設定した最高なる原則である。此の發見によつて、社會黨と勞働者とが、力を統一し得るであろうとマルクスが豫想したのは理由があつた。此原則が一種の海圖である。いはゞ、社會黨の爲に働く科學的の方法を間違ひなく指示する磁石である。斯くして社會主義と社會進化が共同出來る所以である。此方法が、意見の凡ての衝突を不可能とする。結局、右黨、中黨、及び、左黨と云ふような區別はないことになる。又、革命主義者、便宜主義者、不可能主義者、穩健主義者と云ふものが出來る筈がない。それ等は總て空想主義者の運動の中に入るべきものである。乍併、社會進化のみが、

社會主義を實現する力を有すると云ふマルクスの敎訓を基礎とした科學的運動に於ては、總てが社會進化の向ふべき方向を研究し、而して社會進化を促進するための共同によつて統一されべきである。

カウツキーは云ふ。

『思想家が、なすべき仕事は傾向を發見し、認むるにある。そして、思想家の其の仕事の成功不成功は彼が以前の狀態を理解してゐる度に比例する。併し、思想家は社會進化を確定する事は出來ない。そして社會進步の傾向を認むるにさへ、其所に制限がある。社會生活の組織は非常に複雜なものである。最も明析な頭腦の所有者でも、社會の總ての方面を探知し、其中に働く凡ての力を正確に推定し、而して、是等の力の共同作用より如何なる社會的形式が發生するかを豫言する事は不可能である。新しき社會の形式は、特種の天才の活動によつて發生するものでない。例へ夫が最も偉大なる國王であり。或は最も賢い最も仁德に富める哲學者ですら、社會進化の方向を決定し、其適應すべき新社會形式を正確に豫言する事は出來ない。人類の歷史に於て、革命黨が新社會秩序の形式を豫言した例も決してない。又豫言出來ない。進步の目的は大いに達したことになる。若し、傾向を確め得ただけですらも。其の傾向とは新しい社會秩序となり、則ち、其政治的の活動が單なる本能的にあらずして有識なる活動となり得る點に迄導く事が

出來得ると云ふ傾向になつたならば、社會進歩のために夫れは大なる利益である』と。

是等の教訓があるにも拘わらず、現代の社會黨は、社會進歩が彼等の命令に從つて來ると云ふ空想と信仰を依然と持してゐる。そして、社會黨の團體は自己に最も適する方面に社會進化を向けようとして、彼等は望なき分裂と爭ひの中に彷徨ふてゐる。統一をするならば進歩の爲、人道の爲に偉大なる仕事が出來る時に當つて彼等は其の望みなき狀態にあるのである。

マルクス主義の結論マルクス主義の原則は科學的に立證出來るものではなかつた。結局、是等の原則及び結論は社會進化と衝突してゐる。理論に於ては是等の原則を守り、實行に於ては是等の原則を破棄することに據つて『マルクス主義者』は國際社會黨の悲劇である處の內部の爭鬪に陷りつゝある。

社會主義の進歩と、世界の進歩とは、歷史の唯物觀を基礎とした昔の非科學的原則を退け。同時に社會進化は、階級爭鬪によつて働くもの、而して生產の要具の所有者、即ち資本家とプロレタリヤ間には利益の調和がないと云ふ理論を捨てる事を要求する。生產の見地からは、階級爭鬪は社會進歩の法則でない。社會進化は、生產者の利益の爲めに働かない。乍併消費者の利益の爲に働く。生產の要具の所有者、即ち資本家とプロレタリヤ

とは共通なる社會的利益を持つてゐる。そして、社會進化は大多數の共通の社會的利益を保護するものである。で、此の大多數とは過去の遺物や、現在の無用物に對して有力なそして有益なる者の聯合である。

先づ斯くの如きものが、社會進化の敎へる處である。而して是等の敎へが歷史の社會的解釋の原則となるべきものである。（ウイリアム）

年始中元の贈答品

近頃流行語のやうになつて居る生活改善といふ題名の下に、年始中元の贈答品を廢せよといふ聲が聞えます。そしてその反應として、『馬鹿ないふな贈物は吾々生命の谷のかけ橋だ。上役の御機嫌を害へば吾々一家は路頭に迷はなければならないではないか』といふやうな事も聞かれます。私が申す迄もなく、此の贈物の起原は本當に美しいものであつたに違ひない。日頃色々と御恩になつて居ても多忙のために知らず知らず御不沙汰をするから盆暮の休暇を利用して御禮に伺ふ、併し心に思ふ感謝はなかなか言葉では盡されないからせめてその心持を品物に代へて心からの謝意を表し度いと云ふにあつたに違ひない。かう云ふ美しい意味の贈物を拒む事は寧ろ、罪惡のような氣もします。

併し乍ら或るお方の仰言るやうに家族が路頭に迷はぬ爲に上役に贈物をすると云ふことが贈物をする本意ならば、贈る人の爲にも亦贈らるゝ人の爲にも慨歎せずには居られません。何故なら贈る人は自己の價値を認めない結果そんな事を目論むのでせう、又贈らるゝ人としてもその贈る人の眞の價値がどうであれ、若し贈物の爲に首を接いで置くのなら、甲が一圓の物を贈

四二頁へ續く



既婚婦人と職業

異常な出來事、又は、不慮の災害によつて、私共の心身がさいなまれるのでない限り、つまり、普通の生活狀態に於ては、私共の幸福とか不幸とか云ふことは全く自分自身にあるのであつて、外界の事情によつて定められるのでないと私は信じてゐる。

職業婦人が結婚した後、猶、職業を續けて居た方が幸福か？　職業を捨てゝ、全然、家庭の人となつた方が幸福か？　と云ふことは日に月に職業婦人が增加して行く今日、可なり大きな問題であるが、職業を續けて居て幸福であるならば、職業を捨てゝ全然家庭の人となつても幸福であり、家庭の人として幸福であるならば職業婦人であつても幸福な人であらうと私は考へる。

なぜなら、私共の少なくとも既婚婦人の幸不幸は職業と云ふような、外部の事柄によつて決定されるものではない。自分がいくらかの收入を絕へず持つて居なければ夫の侮蔑を買ひ、蹂躪され、人としての自分の體面を保つて行かれないとするならば、其の夫は、人としての妻と結婚して居るのでなく、職業婦人としての妻と結婚してゐるので、妻が職業に從事することが不能になつた曉には彼女を捨てゝ、有力な外の職業婦人と、又、結婚してしまうかもしれない。それは、人としての婦人と結婚したのでなく、容色と結婚して、そして、その容色が衰へた曉には、又、他の美しい容色の婦人の許へ走つてしまうのと同じ理窟である。であるから、職業に從事して居ることによつて、つまり稼いで居ることによつて自個の體面を保ち夫の愛をつないで居ると云ふことは、大きな岩石が自分を壓死さ

せようとして頭上迄落ちて來て居るのを脆弱い兩手で支へてゐるようなもので、とても、苦しい危險な、そして、不幸な生活である。

　これに反して、妻の人格を愛し尊敬して居る夫であるならば、妻に收入があつてもなくても同じことで、もし、家計の都合上、又は、結婚前の妻の經歷が妻に職業を取らせて居るとしても、夫婦の間に何等の不都合も不調和も釀される筈がない。さう云ふ婦人の幸不幸は職業に從事するしないによつて斷じて影響を受けてゐない。

　要するに、職業婦人として善き婦人、幸福な婦人は、家庭婦人としても善き婦人、幸福な婦人であつて、家庭婦人として無能な、そして、不幸な婦人は職業婦人としても無能で不幸であると、先づ、大體に於て云へると私は思ふ。つまり、稼ぐと云ふことは私共の生活を支へる單なる手段であつて、其の生活の本體に誰が何と云つても私共の結婚生活乃至家庭生活であるから、其の結婚生活乃至家庭生活が平和で健全であるならば私共は幸福である。であるから、其の結婚生活乃至家庭生活を平和に健全に進歩的にすることを目標として、人々それ〴〵の位置と事情によつて職業を取るも善し、捨てるも善しであると私は考へてゐる。

　勿論、自分一個の結婚生活乃至家庭生活と云ふような狭い範圍を超越して、全社會のため、全人類のために自己を全く無にして居るような大人物は別として、私は私共凡人の場合に付て云つてゐるのであることを御斷りして置かなければならない。

四〇頁より續く
り乙が二圓の物を贈つたなら取捨するに當つて甲を捨てるに違ひない。併しこんな事を言ひ得る間はまだまだ我々は本人は幸福です。贈物に依て首が落ちないで居られるのは其の役所なり會社なり商會なりに餘裕があるからでせう。もう一歩世の中が世智辛くなれば眞に働きの無いものはどれほど上役にお世辭を遣つても上役も背に腹は替へられぬから無價値のものは使はなくなりませう。（ひさ）

誌にすみませんが貴社發行の婦人と新社會の誌上末尾に御記載下さいますれば誠に結構な事であります、富山縣西礪波郡津澤町附近の婦人の生活の一端であります。

田舍婦人の生活

津島雷眠

一

私は昨年八月非常に長いことで故郷に歸つて色々の事情で三ケ月間程滯在しました。その故郷といふは、北陸の津澤といふ戸數二百餘りある田舍町で、文化の進歩は甚だ遲い所でありますが、私の故郷を音づれたのが餘りに久振りであつた爲めに、そこの風物の非常に變つてゐたことに驚かされました。私の以前故郷にありし頃は、汽車もなかつたが今日では汽車もあり、又町内電話も設けられ、まだ設備は完備してゐないが縣立高等女學校も向ふ五ケ年の計畫で建られ、本年四月から小學校の一部を借りて開校することになつてをります。又町内建築の具合も甚だ變つてゐました。而して其等外面的の變化はまた其處に住む人々の精神的に自覺してゐたことは、其等外面の變化以上かとも思はれました。がしかしそれは單に男のみの向上進歩であつて、婦人達には何等進歩の跡もなく、昔も今も變つてゐなかつたのです。從つて婦人の向上發展を妨害する因習道德は其儘に現存し、婦人は何等の刺戟を受けることもなく、又自ら進んで自覺しやうといふ意氣もない。偶々私達が婦人の刺戟になるやうなことを云つても一笑に附せられ、婦人自らも誰一人耳を傾けてくれないのです。故に婦人問題の如きは誰も口にする

ものはないのであります。不平等も固定した制度となれば、却つて社會の安寧が保たれると云はれますが、不思議な程に其津澤方面の男女間の安寧が保たれてゐるのであります。しかし性の區別こそはあれ、男と女の間にかやうに差別觀の存するは私達の不滿に思ふところであつて、殊に都會に於て、婦人達の目ざましき活動振を目撃し、又、毎日、新聞雜誌等で拜見し、それがまた妥當なりと信ずる時、一層其念を強うするのです。こゝに於てか私はその津澤方面の婦人達の生活の一端を大ざつぱに述べて見度いと思ふのでありま す。而して我國の現狀として以下述ぶるやうな婦人達の生活狀態は田舍に於て珍らしくはないだらうと思へます。

二

津澤方面では昔から女子供と云つて、立派に成長した婦人達も、男子の目からは子供同樣に見られてゐるのであります。從つて彼等男子達は人間としての婦人の地位を全然認めてゐないのであります。それがまた今日の田舍婦人一般の狀態でもありませうが、兎に角男も女も人間である以上、かくも絶對的の差別觀の存するは實に寒心に堪えないことであります。勿論それは彼女達の自覺を促すやうな教育の自由を與えられないからでもありませうが、單にそればかりでもなく罪は婦人自身にもあるやうであります。彼女達はせいぜい學校教育を受けて高等小學を卒業する位であつて、高等女學校等へ入學するものは極く稀であります。普通一般の婦人達は尋常小學を卒業する位であつて、それから後は彼女達には讀書の機會もなく、又讀書しやうともしないのであつて、尋常小學校が教育の始まりであつてまた終りであります。かくの如く一般に婦人達の教育程度の低いのは、種々原因もありませうが、要するに高等女學校が遠く、又一般の家庭は農家でありますから、女の子には學問は不要であると云つたやうで、十分下宿をさせて女學校へ入學させる丈けの餘裕があつても學ばせないのであります。それがまた今日の一般女性の通弊として、少し學問でもすると、夫を尻に敷いてしまふといふやうな關係から、百姓の家では嫁に貰手がない場合もあるからであります。かや

うな狀態で婦人達の中には手紙一本書けないものが多いのであります。それで日常の重立つた事は、男子がすべてやるので、婦人は單に男子の命令を待つてやるのみで全く獨立の地位がないのであります。

三

婦人達は結婚に就いての自由を持たないことであります。そして彼女達の學校出てからの生活は、裁縫を習ふとか、機を織ることを敎はるとか、親達も總がゝりで結婚の爲めの着物を造るとか、全く結婚の準備生活であります。そして一般に早婚で十七歲位から十九歲迄遲くて廿歲頃までには結婚するのであります。而して其結婚の問題となると、すべて親達によつて解決せられ、親達は先方の種々の樣子を檢べて夫を決めるのであつて、殊に面白いのは先方の男の徵兵檢査に合格したかどうかを聞くことであります。卽ち親達の娘の爲めの夫は不具者でなく丈夫でありさへすれば、それでよいのであります。故に女は其夫たるべき男と同居する迄は、全く其夫を知らない場合が甚だ多いのであります。

夫婦生活に入つてからも其夫婦間に戀愛のあらう筈もなく、妻の服從によつて家庭は維持せられるのであります。從つて妻は夫の放漫な生活振りに付いても、舅姑に對しても絕對責任を負ふので、夫が夜遊びなどして其歸宅が遲い時には、妻の夫に對する日常の態度が惡いからだとて、夜更けてからでもかまはず舅姑が夫を迎へに行くやうに命ずるのです。それがまた妻の務めとも云はれるのであります。かやうな有樣でありますから、夫婦間の學力の差異又誤れる家族制度の結果たる舅姑の指圖は、彼女達をして一家の下婢たらしめるのであつて、子供からも馬鹿にされてしまふのであります。

以上は唯私が歸省中の觀察でありますが、近來一般の個人的自覺の結果は、婦人の地位も隨分高められたやうでありますが、それはたゞ都會の一部の女性達に限られるやうであります。刺戟の至つて少ない田舍の女性には何等覺醒した所を見出すことが出來ません。何等かの方法によつて一般の女性達の自覺を促すやうな具體的方法を講ぜられんことを希望します。

近代歐洲思想の歷史的研究（二）

知力的進步の二要素

人類の知力的進步を確實にする爲めには二つの過程があつた。そして、此の二つの過程は其の活動に於ては度々反對の位置に置かれて居た。反對の位置には置かれて居たけれども、併し、實際には其のうちの一つが必ず他の一つを求めなければならなかつた。其のどちらもが一つ丈では進むことが出來ないのである。而して、其の二つとは知識の增大と要約と言ふ要素である。知識の蓄積と延長は、好奇心、實際生活の要求、毎日の經驗と此の三つによるものであるが、併し、斯樣な益々增大して行く知識はそれが直ちに把めるやうになつて居なかつたならば、つまり、散漫な狀態に置かれてあつたならば、餘り用を爲さない。知識の運用は其の蓄積と同じやうに重要である。我々が探險しようとする地方が廣ければ廣い程、出來る丈高い、一目で見渡すことが出來る高い場所を探さなければならない。立つて

居る處から左右前後が、及び遙かに遠い處迄をも見通せるやうな高い處を。併し、高地は如何にも我々の心を牽き附けるものであると同時に、其處から周圍を眺めること は度々我々の眼を惑はし誤解に陷らせることがある。高地は我々が探檢した處を振り返つて見させるのみならず、則ち、我々に其の多くの要點や、曲りくねつた道や、又は、其の別々な物の位置に對する一層明瞭な繪を我々の目の前に展開するのみならず、猶、又、其の未だ探險しない地方をも我々に示し、ぼんやりとした其の輪廓を、我々の過去の經驗や想像を以て充さうとする。つまり、より樂な愉快な方法を以て困難な仕事に代へさせようとする企てを暗示する。而して、譬へ、我々が其の高地から平原に下り、而して、一層細い、一層骨の折れる研究を續けて居ても、我々の心の裏には高地から眺めた印象が先入となつて居て、若し、それが我々を誤まらせるものであつても、その觀念を捨てることは容易でない。

知識の要約は知識の理想化となる。其の無數の例を歷史が語つて居る。數世紀の間

知識は雜駁に蓄積されたり、又は、何等の組織なく、拙なく並べたりしてゐた後に、不意な發見や、發明の望みで活氣づいた光輝ある短期限の時代が續いた。忍耐を要する仕事や、本當の進歩となる努力は長い間誘惑的な幻影に煩はされ、其の壓迫を受ける。而して、其の壓迫は非常な勞力を無駄にした後に辛く捨てられるものである。新らたな豫想は、不意に、未だ探險されてない大きな地方を我々の眼の前に展開する。而して、我々を高地に登らさしむる。其處から眺むるならば人間の知識の全部が恰も一つの眞理に、少くとも其の瞬間に於ては、要約されてあるやうに見える。或ひは理想化された一つの幻像であるやうに見える。かと思ふと、又、それ等の愉快な功績は、普遍的に存在して居る失望と狼狽の内に葬り去られたやうに見える。

十九世紀は知識の蓄積に於ては未曾有であつた

十九世紀の特長はそれ等の變り行く方法の或る一つか又は多くの連鎖であつたかは私が是から答へようとする問題である。併し、差し當りは、二つの方向則ち知識の蓄積と要約則ち理想化の内に十九世

紀の努力は多く費され、且又、著しいものであつたと云ふことを此處に注意して置きたい。

知識の蓄積と云ふことに於ては、全く、以前には其の例がなかつた。是に反して知識の要約と云ふことに於いてはペリクル時代に於ける希臘の理想的偉大さ、伊太利に於ける文藝復興の光輝、或ひは佛蘭西及び英國に於ける十六世紀と十七世紀の大發見には恐らくは匹敵しないかも知れない。

十九世紀の手柄は知識を得る方法と知識の統一

けれども、十九世紀の功績は知識を擴大する正確な方法に就いての明瞭な見解を創造し、而して特別な言葉の内にそれを蓄積したことである。つまり、知識の統一の可能と言ふことに就いて特別な概念を發達させたことである。一時、而して、それはツイ先頃迄のことであつたが、眞理と言ふ言葉は、眞理を求むる者に知識を獲る正しい方法と方向を指示するのみならず、尚又、知識の花冠なる目的をも示すものゝやうに考へられて居た。『眞理、而して、眞

理のみ』と言ふ言葉は一般人の心には知識を求める正しい格言と思へて居た。つまり、眞理が發見されると云ふことは、全部の知識の統一と言ふことに考へられて居たからである。

眞理を求めることは知識の目的ではなく、研究家の態度に過ぎない

眞理を求むる心は研究家の道德的態度を明かにはするが、併し、それは知識の進み行く方向乃至は目的を定めるに充分でないと云ふことは科學的研究者にも、亦、哲學者にも、今は充分明瞭であると思ふ。眞理とは何ぞやと言ふことは未だ猶未解決の問題である。眞理の標準は今猶定まつて居ない。けれども、若し、眞理と信仰の道德的觀念が研究家或ひは思想家の魂から消失して仕舞ふならば、それは實に悲しい經驗、無類に大きな不幸であることは想像出來る。而して、我々の道德上の財寶、則ち、善、神聖、美及び詩學の如きものに就いても、同じやうなことが言へるが、と言つて、其等の知識は定義から始まるものでもなく、又、定義に依つて增加するものでもない。我々がまだも

のを考へる習慣を持たない子供の時代に於いて、我々は言葉を通してそれ等の道德上の財寶を獲得したが、併し、我々が長じてから、それらの道德上の財寶を論理的に區別した處が、其れは深くもならず、又、意味が明瞭になるものでもない。論理的の區別は確信の深さを破壞することはあつても、併し、それは我々の確信の眞髓には觸れない。

科學的研究法、ガリレオ、ニユートン等に依て始めて實行され、ベーコン、コント、ミル等に依て定義を下された

眞理研究と言ふ高尚な響きのする、けれども、定義の下せない眞理の探險の代りに、現代科學は巧な研究法を提供した。而して其の方法は忍耐強い實行に依つて學ばねばならぬもので、唯、其の説明を聞いた丈では了解出來るものでない。それを實行して成功した例はガリレオ及びニユートンを始めとし近代に至る迄の現代科學界の巨頭の仕事の裏に記されてある。而して、それ等の著書から、哲學者ベーコン、コント及びミル等は、幾分かの誤解や錯誤があつたにしろ、理論上の根據を探り出そうと試みた。それ等の

方法を注意深く研究して見やうとすることが我々の仕事の大部分である。で、此の際、科學的研究の結果、又は、目的が方法を定めるものでないと言ふことを心に留め置くことが重要である。純粹な科學的の研究者は自身の取つて居る道が何處へ彼を導いて行くであらうかを知らない。唯、自分の通つた道が明瞭に記されるならばそれで充分である。現代科學は其の仕事の方法を定めるが、併し、目的を定めない。つまり、數と計算、一言で言へば數學的の方法を基礎とするものである。科學の進歩は數學的の方法及び概念の延長に勿論據るものには違ひないが、又、一見、數學的でない問題にも數學の符號を用ふることにも依るものである。エキザクト（嚴正）又はポスチブ（明確）と言ふ言葉は大陸語及び英語に於いてはそれ等の方法と適用を指示する爲めに、普通に用ひられて居る。

學問の分割は表面丈

現代の科學界と直接關係のない人々には、科學的研究は、無數の變化を可能とする或る限定された方法に單に從つて居て、而して、其

の進行中、等しく限定された、併し、無數の分岐されてある道へ我々を導くことに依つて、所謂高い處から見下す見解、則ち知識を要約し、統一し、理想化する見方を段々失ひつゝあるやうに見えるだらう。科學研究者が其の見方に忠實であることに依つてのみ、知識は整理され、摑み易くなるのであるが、古い觀念に關しては此の狀態は殆んど止むを得ない。けれども、知識の統一、秩序、調和、釣合ひ、及び、眞理と言ふ言葉は最早科學の研究家には規則としては何等直接の用をなさない。其の點は、一度は或る數には、或る神祕が附着して居るやうに想像されて居たが、今は、誰もそんなことを信じないと同じである。

科學と詩學の間の外面的な基礎

勿論、我々は、或る文字に附着して居る魅力を捨て切れないと言ふ時代に生活して居るが、併し、猶、詩的、哲學的、及び、宗教的のものゝ見方が科學的の見方から益々隔つて行つてゐるやうに見ゆることは爭ふべからざる事實である。さう言ふものゝ見方は最早科學的の研究には何等の役をしない。

さう言ふものゝ見方から科學的の研究は得る處はない。處で、此の變化に依つて、今擧げて來た、從來の見方と科學的の見方と其の双方が損失をして居るかと言ふとさうでない。其の變化に依つて科學は進歩のより大なる形式上の完全さと、並びに確實な位置に達したのみならず、猶、又、古代及び中世紀の研究には、全く無であつた重要なる利益を獲得してゐる。

科學と生活との一層密着な關係

其の利益と言ふのは科學と實際生活の間のより密着な關係である。則ち、科學的の方法を支配する同じ數學的精神は猶又工業、貿易、産業を支配し、其の上に徐々と醫學、法律、行政の如き方面に迄も這入つて行つた。何となれば、凡て是等の方面の仕事は直接に、數、尺量、重量、及び、時間空間の距離に關係あるものである。而して、統計及び平分と言ふ巧みな組織を利用することに依つて、個人的及び主觀的の勢力の不規律や揚げ足取りを除去することが出來た。科學的研究の問題は斯くの如く非常に增大して來た。科學に於ける各々の進歩は

實際生活の測定し得る現象を支配し得る我々の力を大きくした。而して、實際生活に於ける各々の新しい發達は、又、科學的研究の新しい分野を造つた。實に、科學と實際生活の間の接觸が此の十九世紀に於いて、一層密接して來たのである。而して、此の密接は現代の科學的研究法と相待つて進んで來て居る。

凡て實際問題の連帶

若し、此の科學的の研究法が、實際生活と相待つて進んだのでないならば、それは、唯、無限の分業となるばかりで終つたらう。實際問題も亦科學的の實驗と同じく孤立して居ることが出來ないのが其の特性である。則ち、凡ての實際問題は多くの外界の事情、生活、及び、生活の利益の全部を見る必要を我々に強ゆる。

生活の理想の爲めに十九世紀は何をなしたか

若し、十九世紀が科學及び生活に於ての實證的な方法に據つて、科學と生活の利益を增進したと言へても、猶未だ一つの問題が殘つて居る。則ち、以前の時代は科學と生活の統一及び調節の原則としての眞、

美、及び、知を久しい間神聖視して來たのであるが、それ等の理想を維持する爲めに十九世紀は何をなしたか？　と言ふこと丶、一度はそれ等の理想の特別な被委託者であり、知識と實際の多くの部門の分離の防禦者であり、而して、凡て人間の利益の保善、相互信賴、及び、共同の信仰を失ふことから我々を救ふべく豫想されて居た哲學、藝術、宗敎はどうなつたか？　と言ふ問題が殘つて居る。

人間の利益の統一のより深き概念

凡て人類の利益の統一、人類の精神生活の一層深き一層有意義な概念を此の時代が造りつ丶あつたことを私が信ずるのでなかつたならば、此の書物を書くことが値打あるとは思はれない。何故ならば、此の十九世紀の高尙な仕事に於ける多くの力の共同を路附けることが此の書の本統の狙ひ處であり、主なる目的であるから。凡ての知力上の努力は人類の理想的な富を創造し、而して、維持する爲めに共同すると言ふ強い確信と、それから、此の理想的な富を培養するのは一つの特殊な方向が決つて居るのでもなく、又、一つの特殊な條件の下に置

かれねばならぬものでもなく、併し、個人と國民の聯合した國際的生活に依つて、それを提供し、而して、永久的にすると言ふ信仰が、私に此の書物を書かせるのである。

此の統一を表現する種々の言葉

哲學の諸系統は人類の內界の統一を示す多くの言葉を此の十九世紀中に紹介した。ヘーゲルの精神、コントの人道主義、ロッツの小宇宙、スペンサーの社會有機體は皆同じ問題に對する特別な方面からの特別な見方である。而して、獨逸の理想主義、佛蘭西の實證主義、英國に於ける物理的心理的の進化等——外面からは分裂の傾向を示して居るにも拘らず——及び、社會變化と、科學の專門化がどう言ふ風に人間生活と利益の統一を計る爲めに聯合したかを注意することは興味あることである。

思想の定義

で思想と言ふ言葉は最も廣く應用出來るし、而して、又、現代の凡ての希望の聯合した目的と努力の內に、如何なる心理、如何なる價値が包含されてあらうとも、それを最も一般的精神に於いて表示するものが思想であらうと思

ふ。此の思想の歴史が思想其のものの定義になるだらう。

一七五〇年から一八五〇年は學問を百科全書的に取り扱つた時代

此の思想史を書くと言ふ如き斯様な企てに於いて、此の世紀中には多くの準備がなされて居た。

故に、現代文學の此の方面を簡單に批評することは適當な仕事であらう。實に我々は十八世紀の中頃から十九世紀の中頃迄、此の百年間、學問を百科全書的に取り扱つた時代と稱せられた時代を通過して來て居るのである。

百科全書的に知識を配列する計企は以前の時代則ち現代科學の生れた直ぐ其の前の時代に屬するものである。ベーコンが其の計畫の先祖であつた。けれども、彼にしろ、猶、又、現代の最も百科全書的知者ライプニッツにしろ、其の觀念を實現することに於いて大した貢獻はしなかつた。併し、科學が神學の軛から解放されて、蓄積された凡ての知識を集め一つの全を造る計畫を實現する仕事は十八世紀の中葉、佛蘭西に於いて、ディデロー、及び、ダレンベルの天才と努力に待たねばならなかつた。勿論此

の計畫はベーコンの『ノーバム、オルガナム』(歸納法的原理)の內に豫示されてあつたものである。

智識の統一は百科全書的の仕事に於いて徐々と影を潜めた

兎に角、此の多大な努力を要する企ての實際上の目的則ち知識の普及は大分進められてはあつたが、併し、人間の知識のしめくくりは有機體的全部であると言ふ本來の觀念は前述の百科全書的學問の勢力の下に徐々と其の影を潜めて仕舞つたと言ふことは認めなければならない。思想と知識の統一と言ふことはディデローの『趣意書』に於いても、亦、ダレンベルの『序論』のうちにも引證はしてある。而して、又、エルシ及びグルーベルの大百科全書の序論に於いても、猶、又、『メトロポリタナ百科全書』に序文として附加されてあるコレリッジの『方法學』に關する有名な論文の內にも同じく引證してある。

けれども、其の結果は或る論理的原則に從つて學問を體系的に區分することも、知識の凡ての部門の出立點を皆同じく歷史的に同視することも、思想の眞の統一と保全

を保存することも結局不可能であることを示した。而して、此の點はベーコンが了解して居ないことであつた。學問の進歩は別な部門に手渡されたり、別々な研究家に託されたりするならば、それは一つの輪にはならないで、寧ろ、螺旋的になつて仕舞ふ。而して、共通の起點から段々と隔つて行く。エルシ及びグルーベルの百科全書が不完全で終つたのを見る時に、或ひは、又、それ等の百科全書が統一と法式の手段として居た哲學的序文や、凡例的な論説を、今日の百科全書は捨てゝ仕舞つて、單に有益な民衆的な參考書として滿足して居る事實を見る時に前述のやうな印象を受ける。

百科全書の講義は獨逸では捨てられた

ベーコンの計畫を實現した百科全書は、學問の延長と應用は知識と思想の統一にならないで、寧ろ、分裂になることを明かにした。獨逸の大學に於いて百科全書の講義が廢止されて仕舞つたのは前述のやうな確信に基いたものであらう。

百科全書の講義は十九世紀の初期に於いては普通一般であつたが、それはキャント、

フヒテ、シユライマッヘルの勢力の下に、知識の完全、一般性、及び統一は、研究の方法を統一することに依つて、則ち同様な並べ方をすることに依つて達せられると言ふ觀念の流行した新期限に大學の敎授及び學問が這入つて行つた時であつた。

最後に、哲學が知識の凡ての部門を確實に支へ、而して、凡ての科學的研究を貫くことが出來たのは、政治上の出來事が、理想上の目的、則ち、自己犧牲の精神や一つの共通義務の感情が獨逸國民の内に、殊に、大學の敎授や學生の内に貫徹するに好都合であつた時であつた。

百科全書は約束したことを滿さなかつた

此の精神は共同的行動及び統一となつた故に、猶、又、思想の統一に好都合であつた。而して、彼等が豫想して居た以上に哲學體系を普及することが出來た。其の當時は、百科全書的評論は學問の空つぽうな貝殼、單なる骸骨以上のものと考へられ、此の百科全書的の評論が知識の生きた精神を捕へ、傳へるものと見られて居た。けれども、終に、我々の注意を惹いた思想の

此の様相は其の影を潜めた。而して、十九世紀の後半に於いては、abc順の辭書の斷片的論文では眞の思想の統一及び保全が保存されないと同じやうに、一個の哲學的法式に知識の眞髓が短縮されるものでないと言ふことが明かになつて來た。辭書の目的は全然、實際的のもので知識普及の通俗的な便宜な道具である。而して、哲學的の斷片論は單に形式で、美味く行つても狹い制限された研究範圍にのみ應用されるものである。

學問を百科全書的に表はした時代と、短期限の間流行した哲學的形式主義は共に過去のものゝやうに思へる。けれども、散亂して居るものを集め、知識と學問の焦點を定めること、及び、思想と進歩の有機體的な繼續と統一を實現したいと言ふ慾望は今日に於いても以前と同じやうに、否、以前よりも一層大きなものである。纒りのない大きな辭書や、又は、餘りに簡單な荒蕪な辭書は、凡て精神上の仕事は生きて居て個性的で無限に變化するものであると言ふ一層深い確信を滿足させない。方法と組織と

秩序が要求されて居るのと全く同じように、個々の思想を刺戟し、生命と變化を創造することの必要が今は感せられて居る。此の確信に鼓舞されて過去五十年は知力の交換を便利にし、凡ての科學の部門の歷史的發達を記錄することの大なる仕事をして來た。

佛蘭西國民は十九世紀の初期に於ては科學の先覺者

此の目的は三つの異つた方法に依つて促進された。十九世記の初期に於いては、科學に於ける先鋒者なる佛蘭西人が科學の各部門の發達のために定期刊行物として叢書を出すことに先鞭を附けた。而して、獨逸がそれに次ぎ、猶其の後に英國が次いだ。（メルツ）

【編輯の後】長子が一家の全部を相續するのは不公平であると云ふことは常に稱へられてゐることですが私の家兄も矢張り不公平に私の生家を相續したのでした弟妹は無一物で家を出て身輕ですから自分の身の仕末さへして居ればよかつたのに反して兄は倒れかゝつた大きな舊家を背負ふて一生苦しみ通しあがき通しました。其の兄が先月の末に急に重病にかゝり危篤に陷りましたので唯でさへ足りない時間を餘程其の方へ奪はれて私も隨分困りました。突然重病にかゝつたように人には見へるのですが實はさうなる傾向はズツト依然からあつたのです。有島武郎氏の死も突然のように人は驚いたのですが併しあゝなる傾向はズツト依然からあつたのです本能立して理智で壓監したです次號に於て聊か書いて見ようと思ひます。

本誌定價表

一册	六册	十二册
金二十五錢	前金 金壹圓四十錢	前金 金貳圓七十錢
送料五厘	（送料共）	（送料共）

[redacted]誌代及郵税は前金の事[redacted]御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと[redacted]郵券代用は五厘切手にて一割增[redacted]廣告は御照會次第御相談いたします

大正十二年七月廿三日印刷納本

大正十二年八月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人 山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人 大杉直次郎

發行所 東京四谷區南伊賀町四一
婦人と新社會社
振替東京五三六八八

